

## 地域包括ケアネットワーク No.12

## 『赤磐地域における地域包括ケアへのとりくみ』

赤磐医師会 上野芳樹

平成17年の市町村合併でかつての赤磐郡5町は赤磐市(旧山陽町、熊山町、赤坂町、吉井町)と岡山市東区(旧瀬戸町)に分離合併となりました。赤磐医師会は両市にまたがっています。

医療環境としては旧山陽町に岡山県内唯一の医師会立病院である赤磐医師会病院があり、地域の基幹病院としての役割を果たしています。住民はかかりつけ医にて日常診療を受け、検査や入院が必要になったら赤磐医師会病院を利用するという医療連携が比較的良好に形成されています。

赤磐医師会の領域は南部の比較的人口の多い地域と北部の人口密度の低い地域とで医療環境にはやや差があり、医療機関は主に南部に多く存在しています。介護環境も南北でやや開きがあります。施設系サービスは人口比ほどには開きがないようですが、在宅系サービスはやはり南部のほうがやや充実しています。地域包括ケアシステムの効率的な運営にはこうした医療施設、介護施設などのハード面の充実と、介護や医療に携わる多職種の連携によるソフト面の充実の両方が必要です。

赤磐医師会は、平成25年度から赤磐市の主催する赤磐市在宅医療連携拠点事業推進協議会に参加しています。赤磐市在宅医療連携拠点事業推進協議会では、地域包括ケアシステムでうたわれている切れ目のない在宅医療を行う医療介護環境を整えるために、介護・医療に携わる多職種がスムーズに連携できるよう、その改善策を検討し、さらに住民の在宅療養に対する啓発を図るべく活動を行っています。

平成25年度は医療スタッフ・介護スタッフの連携ツールとして、在宅支えあいノート「ささえさん」を作成して、希望する住民に配布するようになりました。これは在宅患者のプロフィールを記入するノートで、もしもの時などに、受け入れ病院が当面必要とするとご本人の情報がおよそわかるようになっています。多職種が情報交換するための連絡ページがあり、この手帳を介して患者に関する情報交換が可能です。お薬手帳や保険証を入れるポケットなども付いており、かつての老人健康手帳に代わって徐々に使用する人が増加しているようです。

平成26年度は赤磐市在宅医療連携拠点事業推進協議会主催で市民対象講演会、医療介護職種対象人材育成研修会、医療介護に携わる多職種での研修交流会(ケアカフェ)などが行われました。特に、2回行われたケアカフェは各回70～80名の参加があり、大変好評でした。ケアカフェでは、多忙でなかなか直接、顔を合わせる機会の少ない、訪問看護師、医師、歯科医師、理学療法士、薬剤師、栄養士、病院事務員、ヘルパー、赤磐市地域包括支援センタースタッフなどの多職種が一堂に会し、それぞれの専門職の仕事について、ミニシンポジウム形式での簡単な紹介のあとで、お茶とお菓子を摂りながらテーマを決めて交流意見交換を行いました。ケアカフェ終了後に行ったアン

ケートでも「普段、会えない職種の人と、直接顔を会わせて生きた情報を得ることができた。」「信頼関係のある連携が改めて大切だと思った。」など今後も、定期的開催を希望する参加者が多く、ケアカフェについては今後も包括支援センターを中心に年数回の開催が企画される予定となっています。特に、アンケートの中で注目されるのは介護関連職種の方々から、「病院や医師の話は参考になった。」「医師と業務外の時間に話をするのではないのでとてもよかった。」など医師の参加を歓迎する意見が多くあったことで、今後の連携に、ケアカフェなどへの医師の積極的な参加は有意義に思われます。

このように赤磐医師会の地域でも医療介護を必要としている患者、住民へのケアが充実されるよう、少しずつ努力が始まっています。診療報酬、介護報酬改定を経て医療・介護をとりまく状況は必ずしも良い環境ではありません。地域包括ケアが掛け声だけに終わらぬよう十分な財政的支援が望まれます。



御津医師会：山中慶人